

グループ名 ・代表者名	青木 一政	助成金額	<b>260 万円</b> 当初助成 <b>100 万円</b> +事業指定寄付による 追加 <b>160 万円</b>
連絡先など	東京都新宿区神楽坂 2-19 銀鈴会館 405 共同事務所 AIR 内 福島老朽原発を考える会 090-7245-7761 <a href="mailto:fukurounokai@gmail.com">fukurounokai@gmail.com</a>		
助成のテーマ	福島原発震災に伴う子どもの生活環境の放射能汚染実態調査と被ばく最小限化		

**【取り組みの概要】** (調査研究・研修のねらい・手法・成果など)

- 本研究は放射線被ばくに対して特に弱い、子どもたちの生活環境での放射能汚染実態調査と、被ばく最小限化を目的として実施した。具体的には、①市民自身が放射線測定器などを用いて子どもの生活環境での汚染実態を明らかにする、②子どもたちの被ばく最小化のための課題を明確化する、の2点を目標とした。
- 成果として、①福島市を中心とした高汚染地域の汚染実態調査、②首都圏近郊のホットスポットの汚染実態調査、③尿検査を通じた子どもの内部被ばく実態調査と被ばく低減化のための調査、研究等を行い、それをもとに行政への要請、提言、広く一般市民への情報提供、教育等の市民活動へと繋げることができた。

**【実施の経過】** (取り組みの具体的な経過：主要な出来事のみ)

問題となっている場所の地図あるいは写真など (あれば)

2011 年 4 月以降全て継続中

- 子どもの生活環境を中心とした空間線量把握と提言・要請(福島市内、東京都江東区、埼玉県三郷市など)。
- 土壌、ハウスダストなど生活環境の調査と提言・要請。
- 尿検査による子どもの内部被ばく実態把握と提言・要請

**【今後の展望など】**

- 仏市民放射能分析 NGO-ACRO の支援によりゲルマニウム半導体測定器を導入計画中。より高精度な測定ツールを駆使して放射能による環境汚染実態の監視、被ばく最小限化の取り組みへと発展、継続させる。
- 「除染」「安全・安心」キャンペーンに対抗し汚染実態把握と低線量被ばくの危険性について警鐘を鳴らす。

会計報告書の概要 (金額単位：円)			充当した資金の内訳		
支出費目	内 訳	支出金額	高木基金の 助成金を充当	他の助成金 等を充当	自己資金
旅費	東京・福島往復8回/月×12ヶ月	<b>929,830</b>			<b>929,830</b>
資料費					
機材・備品費	ラボ設備一式	<b>1,883,490</b>	<b>1,883,490</b>		
会議費					
印刷費	報告書5万円×4回	<b>250,716</b>			<b>250,716</b>
協力者謝礼など					
人件費					
外部委託費	(ACRO へのサンプル送付料)	<b>308,772</b>		<b>300,000</b>	<b>8,772</b>
その他	ACRO へ研修出張	<b>173,462</b>			<b>173,462</b>
合 計		<b>3,546,270</b>	<b>1,883,490</b>	<b>300,000</b>	<b>1,362,780</b>

**参考文献 (ウェブサイトや書籍、成果物など)**

- パンフレット「福島の子どもの尿検査から見えてきたもの」「続・子どもたちの尿検査から見えてきたもの」
- ウェブサイト；<http://fukurou.txt-nifty.com/fukurou/2012/08/-acro-d414.html>「尿検査・ACRO の活動報告会」

## 取り組みは10台の放射線測定器から始まった

- 福島原発事故直後、米の反核団体(NIRS)から測定器10台を送るとの連絡。
- 同時の仏の市民放射能監視NGO-ACROからも全面支援の申し出があった。

測定器を福島へ直接届ける



- 新学期が始まる直前に、小中学校のグラウンドがひどく汚染されていることが判明。

「福島県放射線モニタリング小・中学校等実施結果」の抜粋



## 放射能測定プロジェクトの活動開始

[プロジェクトの狙い]

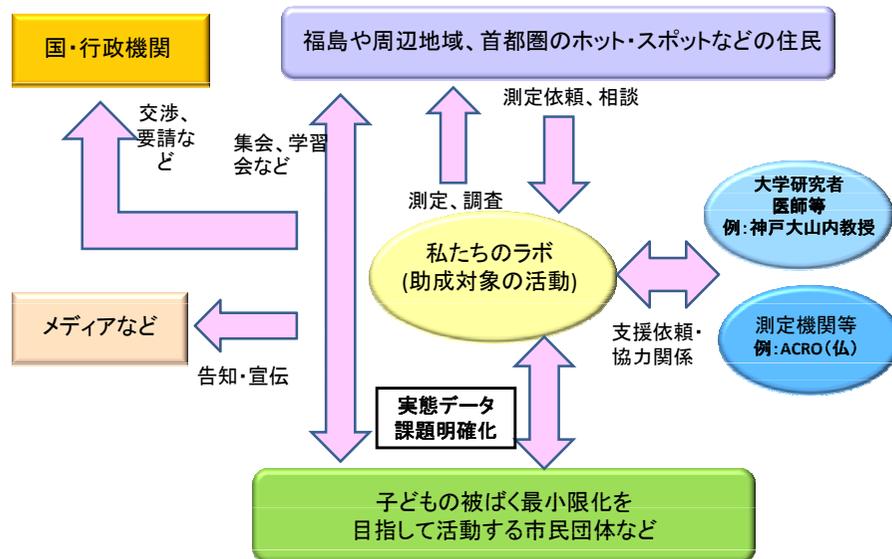
子どもたちの被ばく量を最小化するために

- ① 子どもの生活環境の放射能汚染実態の調査。
- ② 市民として取り組むべき課題を明確にする(行政に働きかけて実現することを含む)。

[本プロジェクトの進め方]

- 子どもの被ばく最小化のための市民の実践活動と一体の活動として行う。
- 実践活動からの要求に応える形で調査研究活動の課題を修正しながら進める。

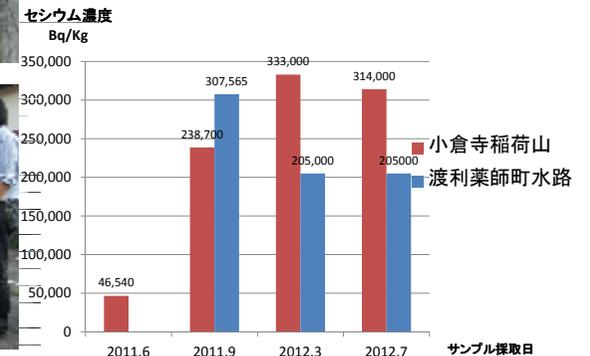
## 私たちの「ラボ」のイメージ



## 福島市内の高線量地域の汚染調査(渡利地区)



福島市渡利地区の土壌汚染



# 福島市内渡利地区の「除染」の実態



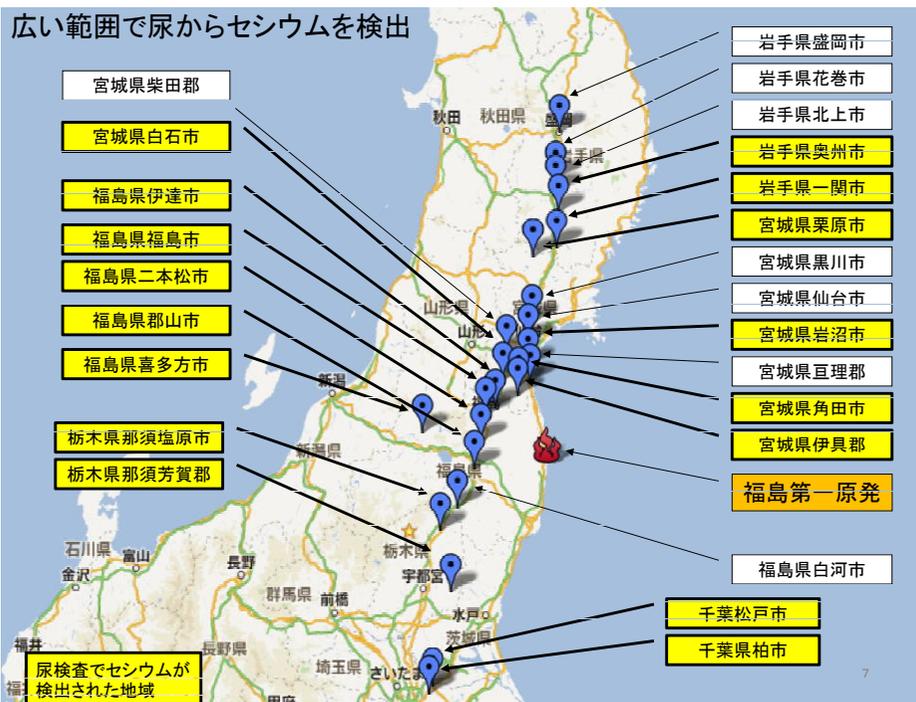
# 尿検査による内部被ばく量の測定

仏の放射能測定NGO—ACROで高純度  
ゲルマニウム半導体によるガンマ線解析

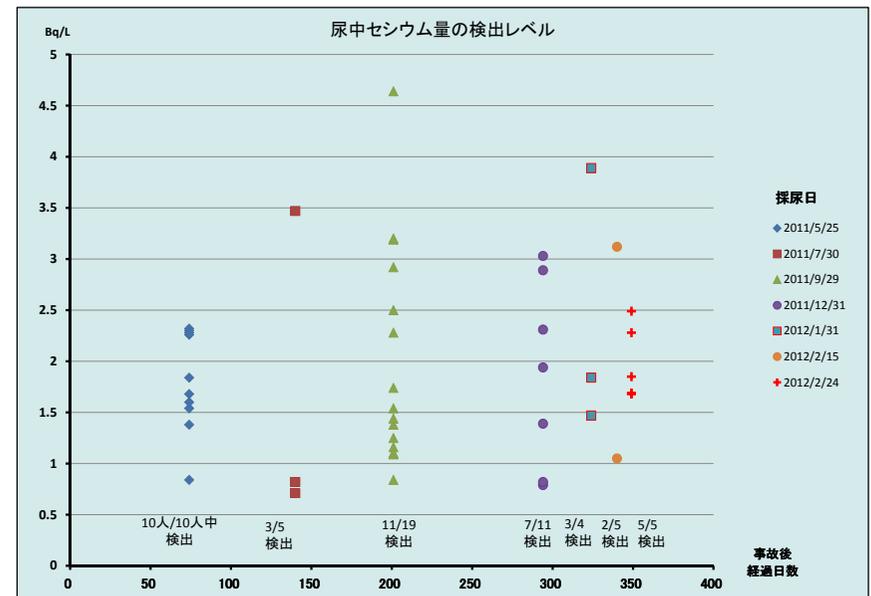


2011年5月22日～対象79名・延べ98回実施済み。現在も継続中。

# 広い範囲で尿からセシウムを検出

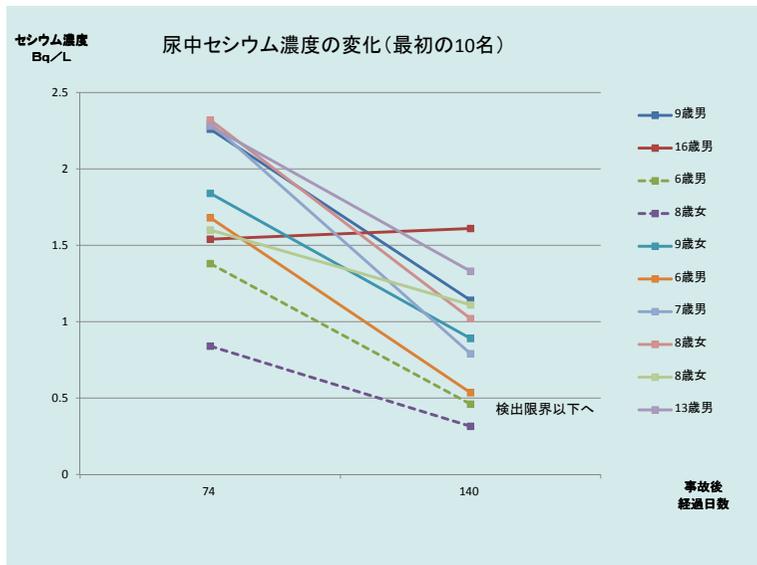


# 事故から1年後でも事故直後と同等かそれ以上の値



## 予防と継続検査で内部被ばくの防止が図られる

(1) 事故直後に測定した福島市内の10名の継続調査の例。



9

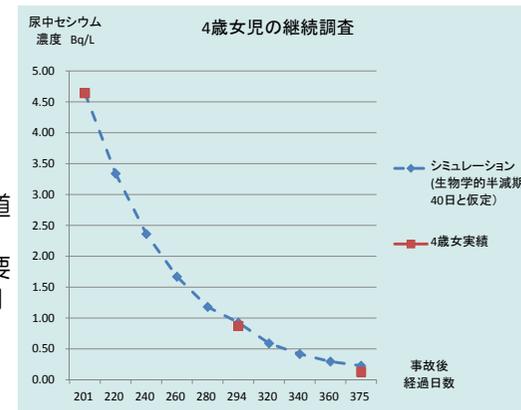
## 予防と継続検査で内部被ばくの防止が図られる

(2) 4歳女子の例

- 岩手県一関市在住の4歳女児：4.64Bq/Lを検出(2011年9月)。
- 2011年7月頃までは放射能の事は全く気にせず、祖母の畑でとれた野菜、椎茸、山菜などを食べていた。家で栽培した干しシイタケの測定したところ1,810Bq/Kgを検出(フクロウの会/ACRO測定)。



- 数値が明らかになって以降、野菜は西日本産、北海道産などに切り替え。
- おそらく大変な努力が必要だったことでしょう。3カ月後、12月に継続検査を行った結果、顕著に改善。



10

## 身近にある危険 — 屋内のホコリも要注意

サンプルNo.	種類	場所	ハウスダスト採取日	ハウスダスト測定結果(Bq/Kg)		
				Cs-134	Cs-137	合計
1012D-5	ハウスダスト	福島県伊達市大槻	2011.10.11	1,130±170	1,920±220	3,250
1111D-9	ハウスダスト	福島県伊達市霊山町	2011.10.13	2,230±200	2,950±350	5180
1012D-7	ハウスダスト	郡山市虎丸町	2011.10.11	155±50	226±54	381
1012D-6	ハウスダスト	福島県二本松市戸沢	2011.10.11	7,100±800	9,100±1100	10,200
1012D-9	ハウスダスト	福島県郡山市安積町	2011.10.11	2,110±250	2,800±330	4,910
1012D-2	ハウスダスト	岩手県一関市山目	2011.10.10	2,530±300	3,330±390	5,060
1012D-1	ハウスダスト	岩手県一関市人妻	2011.10.10	185±30	267±40	452
1012D-6	ハウスダスト	岩手県奥州市江刺	2011.10.11	109±24	111±25	220
1012D-10	ハウスダスト	福島市南女野目	2011.10.11	4,900±600	6,400±700	11,300
1012D-3	ハウスダスト	千葉県柏市埴崎	2011.10.10	2,560±310	3,390±400	5,970
1012D-4	ハウスダスト	大阪府吹田市山出市場	2011.10.10	<10	<10	-
1012D-11	ハウスダスト	福島県伊達市梁川町	2011.10.12	1,090±210	2,210±270	3,900
1118D-3	ハウスダスト	福島市渡利	2011.10.20	8,500±1,000	11,000±1,300	19,500
120205D-10	ハウスダスト	福島県伊達市霊山	~2011.9	585±123	731±161	1,316
120210D-1	ハウスダスト	福島県伊達市霊山	2011.12~2012.1	3,050±610	3,470±690	6,520
120210D-2	ハウスダスト	福島市飯坂町	~2012.1	3,250±650	3,160±650	6,410
120210D-3	ハウスダスト	福島県伊達市月舘町	~2012.1	1,980±730	1,550±830	3,530
120210D-4	ハウスダスト	福島県喜多方市	2011.9~2012.1	375±114	410±147	785
120210D-5	ハウスダスト	宮城県柴田郡	2011.12~2012.1	1,360±360	1,780±500	3,140



子どもたちは大人よりはるかにホコリに近い環境にいる。  
こまめな掃除が重要。ふき掃除も効果あり。

11

## まとめと今後の課題

### 本プロジェクトを通じて明らかになったこと

- 子どもの生活環境や生活実態に即した調査が重要。
- 継続した調査により外部被ばくの低減・内部被ばく予防ができる。
- 市民自らの手で測定することで、低線量被ばく、内部被ばくの危険性について考え知識レベルが向上する。

### 今後の課題

- 市民の立場から放射能汚染の実態を継続して監視してゆくこと。
- 継続して監視するために持続可能な体制や仕組みをつくること。
- 監視・測定は低線量被ばくの危険性についての調査研究と一体のものであることが重要。
- 活動の成果を広く告知して被ばく最小化の動きに繋げること。